

(別紙)

様式第1号(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度 第2回美幌町総合計画審議会
開 催 日 時	平成27年1月30日(金) 18時30分 開会 19時28分 閉会
開 催 場 所	しゃきっとプラザ会議室2
出 席 者 氏 名	委員 清野委員、若林委員、三坂委員、森委員、工藤委員、 早田委員、稲垣委員、西島委員、大関委員 町 染谷副町長、平野教育長
欠 席 者 氏 名	小寺委員、宮田委員、平田委員
事務局職員職氏名	平井総務部長、那須総合計画主幹、竹下総合計画担当主査、 露口まちづくり主幹
議 題	1 開 会 2 策定経過について 3 人口推計について 4 基本構想骨子について 5 今後のスケジュールについて 6 美幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について 7 閉 会
会議の公開又は 非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)	—
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	3名(報道機関)
会 議 資 料 の 名 称	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメ ・第6期総合計画策定経過について ・美幌町の将来人口の見通し(推計結果) ・第6期美幌町総合計画 基本構想フレーム(骨子) ・「まちの課題」について【全部会の内容をまとめたもの】 ・「まちの将来像」について【全部会の内容をまとめたもの】 ・「基本目標」について【総務部会】～【教育部会】 ・第6期美幌町総合計画に係る今後のスケジュールについて ・都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略及び市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について(通知) ・地方人口ビジョン・地方版総合戦略の策定に当たっての参考資料 ・美幌町人口減少問題対策組織関係図
会議録の作成方針	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した全部記録
	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
若林会長	<p>開会</p> <p>定刻になりましたので、これより平成26年度第2回美幌町総合計画審議会を開催いたします。</p> <p>本日は、現在策定中の第6期美幌町総合計画に係る策定経過などについて事務局から説明を受けるものであります。</p> <p>開催に先立ちまして、染谷副町長より一言ご挨拶いただきます。</p>
染谷副町長	<p>副町長挨拶</p> <p>年明けて初めて皆様とお会いするが、本年もよろしくお願ひしたい。</p> <p>本年は予想を上回る雪の量で、また明日からも暴風雪の予報が出ているが、これまで除雪対応も十分でなく、皆さんにはご迷惑おかけしている。今後予算も先決処分しながら更に体制強化していくので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>本日の第2回目の総合計画審議会の内容は、これまでの策定の取り組み状況について、基本構想の骨子案などもご報告させていただき、ご意見を賜りたい。</p> <p>もう一つは現政権が力を入れて取り組もうとしている地方創生の取り組みについて、「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げているが、26年度の補正予算で「緊急経済対策」を国会で審議中であるが、いち早く自治体には取り組みの概要が送られてきており、補正予算が可決していない段階で、私どもに情報として出ている。</p> <p>まち・ひと・しごと創生総合戦略については現在総合計画に取り組んでいるが、それらと連動する取り組みで、今後5年間の人口減少対策に資する取り組みを自治体で競ってプラン作りをしてください。それに対して国として支援しましょうという内容だが、役場内の組織も本日立ち上げスタートする運びとなっている。</p> <p>本日は現時点での情報を基に説明させていただき、この地方創生に関しても皆様から総合計画と併せてご意見を賜ることが今後あるかと思うが、よろしくお願ひしたい。</p> <p>また、本日他の用務で町長が出席できなく大変申し訳ない。審議会の開催にあたり、町を代表してのお礼の挨拶としたい。</p>
若林会長	<p>さっそくですが配付してございますレジュメの次第に沿って進行して参ります。</p> <p>2策定経過についてと、3人口推計については関連する内容ですので、事務局より続けて説明願ひます。</p>
那須総合計画主幹	<p>策定経過について</p> <p>書類番号1をご覧ください。</p> <p>素案の策定を行っている『びほろ』みらいまちづくり会議での開催経過につきまして説明をさせていただきます。</p> <p>『びほろ』みらいまちづくり会議は、9月24日に第1回会議を開催して以来、月1～2回開催しております。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
竹下総合計画担当主査	<p>までさかのぼり、2回分の変化率を算出し、その平均値を用いたのが「2回平均変化率」、さらに5年、1995年（H7）までさかのぼり、3回分の変化率を算出し、その平均値を用いたのが「3回平均変化率」で、今回はこの3種類の変化率を用いて、3種類の推計を行いました。</p> <p>コーホート変化率法による推計結果を下段に一覧表で示しました。2010年（H22）までが国勢調査の実績値で、2015年（H27）以降が推計値になります。</p> <p>いずれの推計も、美幌町の過去5年から15年間の実際の人口動態、つまり、出生・死亡、転入・転出状況だけが反映されたものであり、3種類の推計結果が非常に近い数値で表れていることは、少なくとも過去15年間は、美幌町において、将来の人口推計に影響が及ぶような特殊な人口動態、例えば、大規模な住宅開発による大量の転入や、自然災害などによる多くの町外移転などがなかったことが想定され、これまでのような状況が今後も続けば、このような推計結果になるということの妥当性があると言えます。</p> <p>今回の第6期総合計画の目標年度は2026年（H38）です。推計値は、国勢調査年の5年おきにしか算出されませんが、2025年（H37）の翌年なので、直近の実績値である2010年（H22）の21,575人が、各推計ともに16,000人台になると推計されています。</p> <p>2ページ目では、「2回平均変化率」による推計結果を年齢3区分別に示しました。</p> <p>上のグラフでは、年齢3区分別の人口と総人口を実数で示しており、2010年（H22）までが国勢調査の実績値、2015年（H27）以降が推計値です。</p> <p>一番上の黒丸の太い実線グラフが総人口で、先ほども説明したとおり、過去から将来に向けてほぼ一定に減少していくことが示されています。</p> <p>白抜き四角のマークが15～64歳の生産年齢人口、淡く丸いマークの点線が0～14歳の年少人口で、いずれも一貫して減少していきます。</p> <p>黒い三角のマークが65歳以上の老年人口で、2000年（H12）から年少人口を上回り、一貫して増加してきましたが、団塊の世代もすでに高齢期を迎え、2020年（H32）をピークに、その後は高齢者の数も減少に転じることが見込まれています。</p> <p>これまでは、年少人口と生産年齢人口が減少しながらも、老年人口が増加していましたが、近い将来には老年人口も減少期に入り、総人口の減少が加速することが見込まれます。</p> <p>下のグラフでは、年齢3区分別人口を構成比（100%の帯グラフ）で示しました。</p> <p>年少人口と生産年齢人口の構成比の縮小、老年人口構成比の拡大が今後も継続し、第6期総合計画の目標年度に近い2025年（H37）には、老年人口の構成比が40%に近づく一方、年少人口の構成比は10%を切ることを推計されています。</p> <p>3ページ目では、国勢調査では把握できない人口動態（出生・死亡、転入・転出）の状況を、住民基本台帳のデータからグラフで示しました。ここでは、北海道市町村課の公表数値を使用しています。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
竹下総合計画担当主査	<p>上段のグラフでは、2005年（H17）以降の年間の出生・死亡、転入・転出の実績値をグラフで示しています。美幌町では、出生・死亡者数に比べて、転入・転出者数の方が大幅に多くなっています。上の2本のグラフが転入・転出で、2005年（H17）を除いて、転出が転入を上回る状況が続いています。転入者数は緩やかな減少傾向が見られ、転出者数は、近年は1,000人弱でほぼ横ばいです。</p> <p>下の2本のグラフが出生・死亡で、近年は死亡者数が出生者数を上回っています。出生者数は年間160人前後でほぼ横ばい、死亡者数は200名を越え、緩やかな増加傾向が見られます。</p> <p>下段のグラフでは、人口動態の状況を、転入―転出の「社会増減」と、出生―死亡の「自然増減」、そして、それらすべてを差し引きした年間の「人口増減」をグラフで示しました。</p> <p>一番上の三角マークのグラフが出生数から死亡者数を引いた「自然増減」で、近年は80名前後のマイナス（死亡超過）で推移、上から2番目の淡い四角いマークのグラフが転入者数から転出者数を引いた「社会増減」で、年による差はあるものの、近年は200名前後のマイナス（転出超過）となっています。その結果、全体では、年間に250～300人の減少となっています。</p> <p>最後に、別紙の「参考」と記載されたA4判1枚の資料をご覧ください。</p> <p>人口推計はいくつもの機関が行い、公表していますが、全国・都道府県・市町村の全国統一の推計として、国の機関である（国立行政法人）日本社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」）の推計があり、国勢調査結果を受けて5年おきに公表しています。</p> <p>社人研の推計も、国勢調査結果をベースとするコーホート推計ですが、先ほど説明した変化率法とは異なり、人口増減をもたらす各種の要因を独自に設定（仮定）し、推計しています。</p> <p>表の一番上は、国勢調査の2010年（H22）までの実績値で、2段目が、2010年（H22）の国勢調査結果を受けて、社人研が昨年（H25）12月に公表した美幌町の推計値です。</p> <p>表の中で、下の3つの「ニッコン」と書いてあるのが、今回コンサルで行った3種類の変化率法による推計ですが、これに比べて社人研の推計は、減少はしているものの多めに（減少数が少なく）推計されています。これは推計方法の違いによるもので、今日は推計方法の違いについての詳しい説明は省略しますが、差が生じた最も大きな理由は、社人研の推計が、大都市への人口集中など、これまでの人口移動が今後収束することを仮定している点だと考えられます。</p> <p>これに対して、そのような考え方はいかなるものか…と別の推計値を昨年（H26）の5月に公表したのが、表の3段目に示した日本創生会議（人口減少問題検討分科会）の推計値です。分科会の座長が元総務大臣の増田さんだったことから、増田レポート、増田ショックなどとも呼ばれ、ご存じの方もいるのではないかと思います。</p> <p>日本創生会議の公表数値は、社人研が推計で仮定した「今後の人口移動の収束」がない場合（移動状況が近年と同様の場合）の推計値であり、むしろ、変化率法に近い数値となっています。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
<p>竹下総合計画担当主査</p> <p>若林会長</p>	<p>人口推計には様々な方法や考え方があり、一概に「どの推計方法が最も正しい」とは言えませんが、冒頭申し上げたとおり、今後別途策定する「地方人口ビジョン」における推計方法とも整合性を図りながら目標人口の設定を行いたいと考えています。</p> <p>ただ今事務局より説明がありましたが、何か質問などありますでしょうか。</p> <p>みらいまちづくり会議についても6回目にしてようやくメンバーの意見を聞き取りするような段階に入ったと聞いているが、若いやる気のある人が入って議論しているということで大いに期待できるのではと思っている。</p> <p>また、人口の推計については、このまちが何もしなかった場合にこのような数値になるというものであり、事業展開により移住人口や定住人口が増えるとこのような結果にはならないよということだと思います。</p> <p>我々としては活力を持ってこれに歯止めをかける総合計画であってほしいと思います。何か意見はありますでしょうか。</p> <p>（なし）</p> <p>無いようなので、4番目の基本構想骨子について事務局より説明願います。</p>
<p>那須総合計画主幹</p>	<p>基本構想骨子について</p> <p>書類番号3をご覧ください。</p> <p>基本構想骨子は、各種アンケートの結果や『びほろ』みらいまちづくり会議での議論を元に、案をとりまとめ、第5回まちづくり会議で決定されたところです。</p> <p>基本構想のフレームは、まず「はじめに」と枠で囲った中にある「総合計画の趣旨」や「町の概要」「取り巻く環境」「まちの課題」の部分と、「基本構想」と枠で囲った中にある「将来像」「指標」「基本目標」「施策の大綱」によって構成しますが、この内、「まちの課題」「将来像」「基本目標」について、まちづくり会議の中で内容を協議・決定し、これをもって骨子としたところです。</p> <p>会議の議論の際には、先に皆様にも配付いたしました「美幌町まちづくり白書」と題したアンケートや出前ヒアリングの意見集を踏まえることとなっており、幅広い町民の意見を反映させてきたところです。</p> <p>「まちの課題」「将来像」「基本目標」について順に説明します。</p> <p>書類番号3は常に見えるように説明を聞いていただきたいと思います。</p> <p>資料番号4をご覧ください。</p> <p>これは、第2回まちづくり会議でワークショップにより議論した「まちの課題」についてとりまとめたものです。</p> <p>ワークショップでは、黄色のふせんには、現在町の良いと思われることを、赤のふせんには現在問題と思われることをそれぞれ記載し、同じ項目にまとめ、全体として一つにとりまとめたものです。表では、黄色が良いところ、赤が問題と思われることです。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
那須総合計画主幹	<p>これら意見とアンケートの結果をもとに、次の6つに集約しました。再び書類番号3をご覧ください。</p> <p>1若い世代も住み良さを実感するまちづくり、2「住み良い＝住み続けたい」となるまちづくり、3町の特長を再認識し、より高めることで、まちの活力や誇りに結びつける、4長生きを楽しめるまちづくり、5まちづくりを支える人を冷やし、効果が発揮されるようにすることで、マンパワーを高める、6知恵を出し合って課題を解決していく力を高める。です。</p> <p>6つの課題にはそれぞれ説明文が記載されていますが、これはコンクリートではなく、基本構想素案の段階で更に肉付けすることとなります。</p> <p>次に将来像について。資料番号5の前にある、A4 1枚の【美幌町総合計画将来像】を描かれた資料をご覧ください。</p> <p>これは、前期までの将来像についての一覧です。前期である第5期の将来像は「夢はぐくむ緑の大地 びほろ ～長生きを楽しめるまちづくり～」でした。書類番号5をご覧ください。</p> <p>第3回まちづくり会議で、まちの将来像について、計画終了年度の平成38年に「なっていてほしい美幌町の姿」や「見られる光景」についてワークショップを行いました。会議では、自由に意見を出してもらい、意見を全て拾い上げ、とりまとめました。</p> <p>左側に行くほど手段に近い意見、右側に行くほど目標に近い意見です</p> <p>将来像は目標でもあるので、右側に多い意見を中心に3つの将来像案をとりまとめ、まちづくり会議に諮り、まちづくり会議委員の投票で一つに絞ったところです。</p> <p>再び書類番号3をご覧ください。</p> <p>投票の結果、将来像は「ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち びほろ」となりました。</p> <p>その他の候補については、記載のとおりです。</p> <p>フレーズの意味が記載されていますが、こちらもコンクリートではなく、基本構想素案の段階で更に肉付けすることとなります。</p> <p>最後に基本目標についてです。書類番号6をご覧ください。</p> <p>まちづくり会議は総務・民生・経済・建設・教育と分野別に5つの部会を設置しております。第6期の基本目標は、部会ごとに目標を立て、基本計画も分野別に整理することとしました。また、今回新たな試みとして、基本目標をイメージする漢字1字を決めることにしました。</p> <p>記載のある重視すべき視点、考え方、キーワードが会議で出た意見をまとめたものです。</p> <p>総務部会は、目標を「人を創り、地域力を高めるまちづくり」とし、漢字は「創（そう・つくる）」となりました。</p> <p>1ページめくると民生部会。目標を「自然の美しさやくらしの安心を、みんなで護りあうまちづくり」とし、漢字は「護（ご・まもる）」となりました。1ページめくると経済部会。目標を「まちの資源や持ち味を、活力に換えていくまちづくり」とし、漢字は「活（かつ・いきる）」となりました。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
那須総合計画主幹	<p>1 ページめくると建設部会。目標を「住みやすく、人が集まる基盤をつくるまちづくり」とし、漢字は「集（しゅう・あつまる）」となりました。</p> <p>1 ページめくると、最後の教育部会。目標を「夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり」とし、漢字は「育（いく・はぐくむ）」となりました。</p> <p>課題、将来像と同じく、基本目標に係る説明内容については、基本構想素案の段階で更に肉付けすることとなります。</p> <p>書類番号3にお戻り下さい。今回基本構想の骨子として決定したのはこの1枚に記載した内容となります。</p> <p>基本構想の素案は、この骨子を基に肉付けしながら、概ね本年3月を目途に作成する予定です。</p> <p>ただし、指標については後で説明する地方人口ビジョンとの整合性を図ることとなりますので、後日に、施策の大綱については基本計画の議論が集約してからの文章化となります。</p> <p>以上、基本構想骨子についての説明でした。</p>
若林会長	<p>ただ今事務局より説明がありましたが、何か質問などありますでしょうか。</p>
三坂委員	<p>これを見ると、何ら従来の2期、3期と中身があまり変わってないので、これに肉付けは今後されていくのか。</p>
那須総合計画主幹	<p>これは基本構想の骨子であり、委員から意見はもらっているので今後これに肉付けしていくし、今後基本計画を議論していくが、それらは更に詳しい内容で議論されていくことになる。</p>
三坂委員	<p>第5期の計画など今までの経過報告などは、していないのか。</p>
那須総合計画主幹	<p>先にお配りしたまちづくり白書の中では最終的にはないが、今現在の進捗状況ということで、一応の評価はしている。</p>
三坂委員	<p>今回若い人たちが出ているのでそういう人たちの意見をつぶさないようにしてほしい。</p>
若林会長	<p>この内容だと何をするのが分かりづらい。具体的にものを作るのか作らないのかといったことは今後出てくるのか。</p>
那須総合計画主幹	<p>内容にもよるが、今後基本計画で具体的なものを議論していくことになる。</p>
平井総務部長	<p>これは木でいうと幹の部分で、何をやっていくかは今後基本計画で載ってくる。</p>
若林会長	<p>意見が違ったらどうなるのか。行政で切るようなことはないか。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
平井総務部長	<p>一方的に切ることはない。それもまちづくり会議の中で決めていくことになる。</p>
清野委員	<p>日本の人口が減少するのは間違いなく、地方だけが人口を維持し増やすのは不可能で、本当に国が都市に地方の人口を集めないことに係っているのではないかと思う。どうしても残さざるをえない産業をいかに発展していくかに着目していただきたい。将来的に1万5～6千の人口になると言っておきながら、福祉と医療の充実が本当にやれるのか。切るものは切っていけないと、町は続かない。除雪だって人口1か所に集めれば、経費も少なくて済むし、そういった議論を町民としておこななければならない。コンパクトなまちづくりをすれば投資も少なくて済む。意見として言っておきたい。</p>
若林会長	<p>コンパクトシティも10年以上前から出てきた考え方で、青森なんかは徹底して企業が出ていけないくらい条例でしばっているし、そのくらい強引にやらなければならない。今までは見えていないので役所の方でも戦略を町民に示してほしい。</p>
清野委員	<p>人口が減ると医者の数も減るということだが、そうなる拠点病院の論議になっていくのではないか。高規格道路の整備をすれば25分～30分もあれば北見の病院に運べるので、そういったことを考えて街づくりをしていかなければ。すべてを守るのは不可能だ。</p>
工藤委員	<p>国保病院は総合病院としての機能を持たせたいと意見が書いてあるがそれは現実問題無理だと思う。最終的に専門的な医療は日赤にお願いし、普段は弱くなったお年寄りを診たり、看取りということを実際にやっていたらそれで十分だと思う。交通事故などはなるべく近い病院で見た方がいいと言われるが、癌にしろそれは飛行機で行けば東京でも診れるので、すべての機能を国保病院ということは医師会としても、今の国保病院の院長としてもそういう考えはないと思うから、そこだけ全部盛るというのは間違いではないかと思う。</p>
若林会長	<p>他になければ5今後のスケジュールについて事務局より説明願います。</p>
那須総合計画主幹	<p>資料番号7をご覧ください。 今後の直近のスケジュールについて説明します。 まちづくり会議は、6回目の会議から基本計画の議論を開始しており、引き続き議論を進めております。 基本計画の議論には、本部員の外、担当分野における主幹主査職等も参加しております。 今後、3月までに基本構想の素案を、夏頃を目途に基本計画の素案を作成して参ります。 続いてフォーラムについてです。来月12日に総合計画のフォーラムを開催します。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
那須総合計画主幹	<p>「みんなで考えよう！みらいの『びほろ』まちづくりフォーラム」と題し、北大公共政策大学院特任教授の小磯先生を招き、基調講演とまちづくり会議の委員とのパネルディスカッションを行います。</p> <p>また、来場者アンケートも実施する予定です。</p> <p>小磯先生は、北海道の人口減少問題有識者会議の座長も務められており、そういった観点からもお話しをいただく予定です。委員の皆様も是非参加頂きたいと思います。</p> <p>チラシについては本日20部お配りしております。団体や職場、ご友人などへ配付いただき、宣伝についてご協力をお願いしたいと存じます。以上です。</p>
若林会長	<p>小磯先生は現在紋別市と2人3脚でまちづくりをしているし、私も昨年網走での講演を聞き、非常に参考となる話であった。ぜひ皆さんも聞いていただきたい。</p> <p>続いて、6美幌町まち・ひと・しごと総合戦略の策定について、ありますがこちらについては、総合計画との関係があることから、事務局より説明したいとのことであります。事務局より説明願います。</p>
那須総合計画主幹	<p>「まち・ひと・しごと創生法」の施行に伴い、国は、2060年までの人口の長期ビジョンと今後5か年の目標や施策の基本的方向を示す総合戦略を策定し、都道府県や市町村においても、これらを勘案した人口ビジョンや総合戦略を策定するよう努力義務が課されたところです。</p> <p>人口の目標値や人口減少対策は、総合計画と密接な関係があることから、この場をお借りして、内容について簡単に説明させていただきたいと存じます。</p> <p>それでは、資料番号8をご覧くださいと思います。</p> <p>この資料は、政府が昨年末通知した文書であります。ページ中ほどにありますとおり都道府県及び市町村には、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するよう努めなければならないこととされたところであります。</p> <p>法の成立後、本町においては、庁内における分野横断的な組織設置についての検討を進めるなど、策定することで準備を進めていたところです。まず、この資料を基に地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定について説明したいと思います。</p> <p>1枚めくり、1ページの1 基本的な考え方の1には、国が「長期ビジョン」と「総合戦略」を定めたことが、2には地方公共団体における「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」の策定について記載されています。</p> <p>2ページ(3)にありますとおり、都道府県及び市町村には、平成27年度中には地方人口ビジョンと地方版総合戦略を策定するよう求められているところです。</p> <p>3ページからは地方人口ビジョンについて記載されています。</p> <p>地方人口ビジョンは、国の長期ビジョンの期間である2060年までの作成を基本としています。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
那須総合計画主幹	<p>5ページからは地方版総合戦略についての記載となり、対象期間は平成27から31年度の5年間であることが示されています。</p> <p>戦略等の策定イメージについて説明します。資料番号9をご覧ください。</p> <p>1枚めくりますと、国と地方のビジョン及び戦略の対比イメージが掲載されています。</p> <p>計画期間や基本的なフレームは国と地方は同じものとなります。</p> <p>3枚めくり5ページには、地方人口ビジョンの策定イメージが掲載されています。</p> <p>人口ビジョンは人口の現状分析と将来展望で構成します。将来展望は、希望出生率などに基づく出生率等を加味した自然増減と、移住希望などに基づく移動率等を加味した社会増減によって算出します。</p> <p>3枚めくり8ページ、地方版総合戦略において記載する事項について例示されています。戦略は、基本目標と基本的方向、そして具体的な施策とその指標で構成されるものです。</p> <p>これらを平成27年度中に策定することとなります。</p> <p>策定する組織等についてですが、資料番号10をご覧くださいと思います。</p> <p>まず、現在策定中の総合計画と密接な関係があることから、まちづくりグループ総合計画担当が事務局を行うこととなりました。</p> <p>一番上の「美幌町まち・ひと・しごと創生本部」は、町長を本部長とし、副町長、教育長、部局長と担当主幹数名で構成する組織で、本日、1月30日に設置しました。骨子及び案を作成します。</p> <p>「美幌町まち・ひと・しごと創生プロジェクトチーム」は、関係主幹、主査職及びI・Uターン経験者などを選考し、合計16名で組織します。「自然増対策チーム」と「社会増対策チーム」の2つのグループに分け、施策を議論していきます。</p> <p>町民からの意見聴取については、総合計画のまちづくり会議での意見等も頂きたいと考えている他、近年実施している各種アンケート結果の活用などを実施。更には関係機関や団体などへ出前ヒアリングすることなども検討中です。</p> <p>また、この表には記載しておりませんが、国は住民参画による推進組織による審議などについて求めており、その設置については現在検討中です。</p> <p>表の右側の部分の、国の平成26年度補正予算で計上されている経済対策については、総務部財務グループが所管となり、とりまとめ等を行います。</p> <p>1ページめくると、策定スケジュール案があります。</p> <p>スケジュールについては、現在は大まかな予定で組んでいるのでご理解いただきたいと思います。</p> <p>組織の立ち上げとともに進行方法なども含め、本部会議で協議していく予定です。</p> <p>人口目標の設定については、総合計画の指標と整合性を図る必要があることから、夏頃までに設定したいと考えております。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
那須総合計画主幹	<p>庁内プロジェクトチームについては、近日中に立ち上げ、順次進めて参ります。</p> <p>今年3月までに骨子案を策定、今年6月までに人口の目標値を設定、今年9月までに素案を策定、今年12月までに案を策定、以後パブコメ等を行うこととなります。以上です。</p>
若林会長	<p>本日創生本部を立ち上げたということだが、遅いのではないか。別海町などは既にテレワークサポート事業に取り組んでいて、そういうところは国からお金なども出ていると思われるが、そういう動きをしているところもある中で、本日立ち上げというのはどうか。</p>
那須総合計画主幹	<p>国から正式に閣議決定したのが今年の12月27日で、その他国の動きを待たずして自ら既に取り組まれている町もあるが、町としては国の決定を受けて本日立ち上げたということで、遅いということはない。</p>
染谷副町長	<p>別海町は特別な例で、遅いという認識はなく、むしろ早い方だと思っている。ただ、早ければいいというものでもなく、これから中身のあるものを作っていきたい。</p>
若林会長	<p>経済対策でプレミアム商品券があるが、今スマッピーをやっているが、こういう既存のものをもっと大々的に踏み込んでやるというのは対象にならないか。</p>
染谷副町長	<p>なります。今、国でも予算審議しているが26年度の補正予算の中の2つ交付金のうちの1つが、地域消費喚起型というものでその代表的なものにプレミアム商品券がある。ばらまきの典型例ではあるが、国はそれを狙っている。これは今後どこかでやり始めると、一気に広がっていくと思うので、この取り組みは出てくるんだろうなと思っている。</p>
那須総合計画主幹	<p>管内の状況を申し上げると、本部と立ち上げているのは滝上町だけとなっている。あとプロジェクトチームは北見市が立ち上げたと聞いている。</p>
若林会長	<p>その他、何か質問などありますでしょうか。</p>
三坂委員	<p>次回の予定は。</p>
那須総合計画主幹	<p>今回は素案が3月頃と話をさせていただいたので、その時期にと考えているが、日程調整し改めてご連絡したい。</p>
若林会長	<p>以上で、本日予定されている会議の内容について全て終了しました。本日は、お疲れ様でございました。</p>